

JtCA

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

Frontier

ジャパンマニュアルアワード2024結果報告



第19号
2025年



一般財団法人
テクニカルコミュニケーター協会

Frontier

2025年 第19号

CONTENTS

特集

ジャパンマニュアルアワード2024結果報告	..P.02
はじめにP.02
2024年のジャパンマニュアルアワード概要	..P.05
応募状況P.06
1次審査P.07
2次審査P.08
学生審査P.09
3次審査P.09
表彰式およびマニュアルオブザイヤー 選考会(最終審査)P.10
審査結果P.12
入賞マニュアル解説P.14
選考委員コメントP.29
マニュアルオブザイヤー 2024受賞会社訪問 株式会社アイシンP.36

ジャパンマニュアルアワード2024結果報告

2024年8月29日にTC協会CDシンポジウムにてジャパンマニュアルアワードの受賞マニュアルが発表され、10月9日には各賞の表彰式およびマニュアル オブ ザ イヤーの選考・表彰が行なわれました。今号の特集では、2024年のジャパンマニュアルアワードの概要をまとめ、経過を振り返るとともに、入賞した作品に対する2次審査委員の解説と選考委員のコメントを紹介します。

はじめに

ジャパンマニュアルアワードは、2024年現在、消費者庁および国民生活センターの後援を得ている、日本で唯一の使用情報のコンテストです。使用情報の供給者であれば誰でも応募でき、1次審査、2次審査、3次審査および最終審査を経て優秀な作品には、「マニュアル オブ ザ イヤー」、「優秀賞」、「特別賞」などが授与されます。また、全応募作品に対して、IEC/IEEE82079-1 Edition 2.0を基に作成した独自の評価表による採点結果と、1次審査委員によるコメントが送付されます。このコメントをマニュアル改善に活用する目的で、応募する会社も見受けられます。1次審査は、個々の応募作品がJMAの各実行委員により、上記評価表を使って審査されます。その結果を受け、2次審査では一同に会したJMA全実行委員によるディスカッション形式で、全作品が相対的に評価され、同時に受賞候補作が選定されます。3次審査および最終審査は受賞候補作に対して学識経験者や消費者代表からなる選考委員によって行われます。また一般部門においては、3大学の研究室の学生に、わかりやすい作品を選定いただく「学生審査」も実施しています。

ジャパンマニュアルアワード実行委員(1次/2次審査委員)になるためには、以下の条件でご登録いただく必要があります。

- A. 3年以上の実務経験者(使用情報の企画・設計、デザイン、ライティングのいずれかを経験)で、使用情報の評価に関心のある人
- B. 産業機器の製品/サービスのマニュアル制作実務経験者

Aの方はジャパンマニュアルアワード実行委員会へ、A+Bの方はジャパンマニュアルアワード産業機器分科会へどうぞご登録ください。実行委員に登録されれば8時間の審査委員講習を受けることになり、これを修了した人が1次審査委員の資格を有することになります。

ジャパンマニュアルアワード実行委員会では毎年、結果報告書(本書)を発行しています。日ごろマニュアル制作に携わっている方々がこの報告書から何かを感じ取り、今後のマニュアル品質や制作技術の向上に役立てていただけるよう取り組んでいます。

■ ジャパンマニュアルアワード2024によせて

テクニカルコミュニケーター協会会長 綿井 雅康

本年のマニュアルアワードも、皆様のご理解と協力により実施することができました。本アワードは、年始めの募集案内から、10月のマニュアル オブ ザ イヤー決定まで、長い時間をかけて実施されています。ご応募いただいた会員企業の方々、審査を担当された会員の皆様、本アワード実行委員の方々のご協力とご尽力によって、本アワードが成立しています。毎年のことながら、関係する全ての皆さま方に、心から感謝を申し上げます。

本アワードの最終目標は、応募マニュアルのなかからマニュアル オブ ザ イヤーを選出することです。マニュアル オブ ザ イヤーに選出されたマニュアルは、最も優れているというだけでなく、これからのマニュアルが目指すべき新たな方向性を示したり、他のマニュアルも取り入れるべき工夫が散りばめられています。京都で開催されるTCシンポジウムではマニュアル オブ ザ イヤーが展示されており、詳細にご覧いただくことができます。

さらに、本アワードを実施する意義は、マニュアル オブ ザ イヤーを選出するまでの審査プロセスにあります。応募にあたって担当者が書類を準備されること、1次および2次審査を担当されて数多くのマニュアルをチェックされること、さらには、マニュアル オブ ザ イヤー候補作品のプレゼンテーションをご覧になること、マニュアルアワードに関わる様々な活動が、関与された方々の経験・視野・資質を豊富にすると信じています。さらに、そうした経験がマニュアル制作技術の総体的な向上に貢献しているはずで

す。本アワードを通して、これからのTC技術がどのように発展していくのか、TCの世界がどのように拡張していくべきなのかについても、新たな知見や視

点を獲得する機会になっていると考えます。来年度のマニュアルアワードにも、より多くのマニュアルにご応募いただき、また、より多くの会員の皆様が審査員や実行委員として参画いただきたいと願います。今後とも皆様のご理解とご協力を是非ともお願い申し上げます。

■ 2024年のジャパンマニュアルアワード活動を振り返って

実行委員長 中原 司郎

2024年は募集開始から3次審査会までのスケジュールの見直しを行い、より充実した審査体制で臨める様にいたしました。

■ 2024年の運営活動におけるトピックスは以下の内容となります。

- ・実行委員会、審査員講習会、2次審査会はリアル開催を前提で実施。
- ・CDシンポジウムにおいて審査員全員参加でのトークセッションを実施。
- ・マニュアル オブ ザ イヤー選考会、表彰式をTCシンポジウム会場の京都リサーチパークでリアル開催。
- ・マニュアル オブ ザ イヤー選考委員8名（内3名は女性）。
- ・2024年受賞作品の説明ガイドツアー実施。
- ・TCシンポジウム会場における受賞作品展示は1号館4階ホワイエのスペースを活用。
- ・表彰式&MOY選考会は1号館4階G会議室にて実施。

■ 運営スケジュールは以下の通りです。

- ・1月：2024年の実行委員会スタート
- ・2月～4月：3回に分けて審査員講習会を実施
- ・5月～6月：募集締め切り 1次審査（担当審査員による個別審査）

- ・6月～7月：2次審査(相対審査)2日間 3
大学での学生審査も併行して実施
- ・8月：3次審査(有識者審査)受賞作品確定
マニュアルオブザイヤー候補作品選定
- ・8月：受賞作品発表(WEBでの告知)
CDシンポジウムの中で、トークセッション
「ジャパンマニュアルアワード2024
～審査の中身、みせちゃいます!～」実施
- ・10月：マニュアルオブザイヤー選考会・受
賞作品表彰式を京都リサーチパークで開催
マニュアルオブザイヤー作品発表
- ・11月：年間活動総括

■JMA実行委員会活動では、以下の4点をメリットとしております。

- ・審査方法を覚えることで、良いマニュアルを作るためのポイントを学べます。
- ・応募作品に触れることで、制作トレンドをつかめます。
- ・審査員講習会を通じて、使用情報に関する国際規格の基本を学べます。
- ・審査時に応募用紙を読み込むことで、マニュアル規格の重要性が学べます。

これら4点をメリットと感じていただける方は、是非ともジャパンマニュアルアワード2025実行委員会に実行委員登録をお願いします。皆様のご登録をお待ちしております。

2024年は特にイベントは行わず、会場での受賞作品展示と、説明ガイドツアーに注力しました。説明ガイドツアーは個々の実行委員のスキルアップにつながる活動として今後もTCシンポジウム活動と連携しながら、新たな情報発信を行っていかうと思います。

2024年の全体スケジュール見直しについては、よかった点とそうでなかった点がいろいろと出て

きましたが、振り返り会での意見、アイデアを精査して課題を抽出してよりよい活動に結びつけてまいります。

表彰式とマニュアルオブザイヤー選考会についてのアンケート結果からも運営面への改善要望についてもたくさんのご意見をいただきました。

今後より一層実行委員会活動の充実と品質の高い審査活動を行っていくため、2024年の経験を活かし2025年に結びつけてまいります。

最後に、2024年の実行委員会活動におきまして多大なるご協力とご指導をいただきました実行委員会メンバーの皆様へ誌上をお借りしまして厚く御礼の意を表明したいと思います。

本当にありがとうございました。

2024年のジャパンマニュアルアワード概要

■ 各部門の今年の傾向

●一般部門

2023年は応募21点で優秀賞6点、奨励賞1点であったが、2024年は応募31点、優秀賞3点、奨励賞7点という結果になった。応募点数は増えたものの、優秀賞が半減、奨励賞が大幅に増える結果となった。

複数のマニュアルで構成されているマニュアルの場合、個々のマニュアルの出来の差が大きく、結果として優秀賞には至らず、優れた部分を評価して奨励賞となった。マニュアルによって制作担当者が異なるのかもしれないが、すべてのマニュアルが一人のお客様に渡ることを考えると、改めて全体を見通して、表現、記載内容が統一されているか、相互の連携が取れているか、の見直しが必要である。限られた制作費、日程の中での制作の大変さは理解するが、今一度、マニュアルの読み手（ターゲットオーディエンス）は誰で、その人に何を、どのように伝えるのか、という原点に立ち戻ってはいかがだろうか。

また、2024年は、製品の購入前の情報取得にも活用できる動画（株式会社ニコン）があり、特別賞を受賞し、マニュアル オブ ザ イヤーにノミネートされている。今後の新たな方向性を示すものとして注目される。

●産業部門

産業部門の応募点数は2023年より少なく、6点にとどまったが、少数精鋭と言える結果で、継続的に応募している会社の2点が優秀賞を受賞した。

このうちTHK株式会社は、2023年に意欲的に取り組んだ作品で奨励賞を受賞したが、このときの審査員のコメントをうまく取り入れたことも功を奏し、

2024年は優秀賞を受賞した。マニュアルの成長を見るようで、マニュアルアワードの審査員としてこの上ない喜びである。

新たに応募された会社は3社あり、いずれも受賞には届かなかったが、これに続く形で2025年以降ステップアップすることを願う次第である。

応募状況

■ 応募点数 (総数37点)

一般部門	31点
産業部門	6点

■ 応募会社 (五十音順)

株式会社アイシン
キヤノン株式会社
株式会社JVCケンウッド
スター精密株式会社
THK株式会社
DMG森精機株式会社
TOTO株式会社
株式会社ニコン
株式会社バッファロー
パナソニック株式会社
パナソニックハウジングソリューションズ株式会社
日置電機株式会社
株式会社堀場テクノサービス
Polaris Infotech株式会社
株式会社ミットヨ
村田機械株式会社
ヤマハ株式会社
株式会社リコー
株式会社良品計画

1次審査

■ 審査基準

使用説明の国際規格IEC/IEEE 82079-1 Edition 2.0に対応した評価基準で審査を行いました。一般的なチェックリストは使用せず、ジャパンマニュアルアワード委員会が独自に作成した評価表と呼ばれるシートを使用して採点しています。応募分野により、またマニュアルの性質により、チェックリストでは当てはまる項目と当てはまらない項目の違いが顕著になる場合があります。このような場合、チェックリストを使うと評価結果にばらつきが出て、公正な評価が難しくなる恐れがあるため、より柔軟性のある評価表を使用しています。

■ 審査方法

審査委員はジャパンマニュアルアワード委員とジャパンマニュアルアワード実行委員です。1冊のマニュアルにつき3～5名の審査委員が審査しました。なお一部のマニュアルについては出張審査を行いました。

■ 講習会

ジャパンマニュアルアワード実行委員になった人には、評価基準と評価表の使いかたを学ぶために8時間の講習を受けていただきました。

講師：ジャパンマニュアルアワード委員

遠藤 幸夫

清水 義孝

徳田 直樹

瀬戸 大地

2次審査

■ 審査方法

一般部門(2日間)および産業部門(1日)それぞれで、参加可能な実行委員全員が一同に集まって実施。
1次審査における上位作品を中心に、ディスカッション形式で評価を行いました。

● ジャパンマニュアルアワード委員(五十音順)

<委員長>

徳田 直樹 一般財団法人 テクニカルコミュニ
ケーター協会 副評議員長

<委員>

遠藤 幸夫 ヤマハ株式会社

清水 義孝 株式会社クレステック

瀬戸 大地 株式会社クレステック

根本 隆志 元キヤノン株式会社

都築 行博 岡村印刷工業株式会社

富永 康太 株式会社ホンヤク出版社

西山 貴 マツダエース株式会社

蓮沼 規伊子 デジタル総合印刷株式会社

林 美里 DMG森精機株式会社

東野 誠 トリセツのトリセツ株式会社

樋口 史代 パナソニック株式会社

本田 愛子 株式会社PFU

枘本 清香 DMG森精機株式会社

工藤 亜望 TOTO株式会社

道坂 奈緒美 日立グローバルライフ

ソリューションズ株式会社

山本 由紀 TOTO株式会社

● ジャパンマニュアルアワード2024 実行委員 (五十音順)

<実行委員長>

中原 司郎 パナソニックハウジング
ソリューションズ株式会社

<実行副委員長>

遠藤 幸夫 ヤマハ株式会社

小平 勉 日本電気通信システム株式会社

<実行委員>

安積 美香 パナソニックハウジング
ソリューションズ株式会社

有本 麻里 株式会社富士通ラーニングメディア

上野 由紀子 DMG森精機株式会社

内田 駿 株式会社クレステック

蒲原 久美子 HOTARU株式会社

栞原 帆南 YAMAGATA株式会社

上月 真由美 パナソニック株式会社

斉藤 雅人 ヤマハ株式会社

<事務局>

山崎 敏正 一般財団法人テクニカル
コミュニケーター協会

井上 彰 一般財団法人テクニカル
コミュニケーター協会

上田 優子 一般財団法人テクニカル
コミュニケーター協会

●ジャパンマニュアルアワード2024 産業機器 部門分科会 (五十音順)

<主査>

久保 達昭 株式会社ハル

<実行委員>

相武 絵美 株式会社テクノツリー

石川 喬之 株式会社 SCREEN クリエイティブ
コミュニケーションズ

上野 由紀子 DMG森精機株式会社

梯 珠美 エスペック株式会社

河野 剛久 有限会社デジックス・システムズ

寺田 安夫 元パナソニック株式会社

富永 康太 株式会社ホンヤク出版社

橋本 玲子 村田機械株式会社

東野 誠 トリセツのトリセツ株式会社

林 美里 DMG森精機株式会社

樋口 歩 有限会社デジックス・システムズ

柘本 清香 DMG森精機株式会社

水口 実 株式会社情報システムエンジニア
リング

宮坂 朋子 株式会社ミットヨ

学生審査

常葉大学 安武研究室参加 5名(4年
生3名、3年生2名)

神奈川大学 高野倉研究室参加 9名(全員
3年生)

千葉工業大学 安藤研究室参加 6名(全員
4年生)

3次審査

■ 審査方法

2次審査を経て各部門の上位マニュアルを、有識者による選考委員で審査しました。

●選考委員 (五十音順)

安藤 昌也 千葉工業大学 先進工学部 教授

大村 宏之 一般社団法人 日本食品機械工業会
事業部 部長

河村 真紀子 主婦連合会 会長

黒田 園子 公益社団法人 日本消費生活アド
バイザー・コンサルタント・相談
員協会 西日本支部

島田 能里子 一般財団法人テクニカルコミュニ
ケーター協会 評議員

鈴木 弘彦 独立行政法人 国民生活センター
総務部 管理室 室長

徳田 直樹 一般財団法人 テクニカルコミュ
ニケーター協会 副評議員長

綿井 雅康 一般財団法人 テクニカルコミュ
ニケーター協会 会長

十文字学園女子大学 副学長(教
育人文学部 教授)

表彰式およびマニュアル オブ ザ イヤー選考会(最終審査)

2024年は、各賞の表彰式およびマニュアル オブ ザ イヤー選考会をまとめて、10月のTCシンポジウム京都開催で実施しました。

表彰式では、受賞作品の関係者をはじめ多くの方が出席し、奨励賞、学生賞、特別賞、優秀賞の表彰状と盾が会長および実行委員長から授与されました。さらに、マニュアル オブ ザ イヤーにノミネートされた3社に対しても、表彰状が会長から授与されました。

マニュアル オブ ザ イヤー選考会では、ノミネートされた3作品(3社)の制作担当者によるプレゼンテーションが行われました。プレゼンテーションは1作品10分という限られた時間ながら、各社とも作品のコンセプトや取り組みなどが情熱的に語られ、白熱したものになりました。プレゼンテーションの終了後、選考委員による別室での討議を経てマニュアル オブ ザ イヤーが発表されると、会場は大いに盛り上がりました。マニュアル オブ ザ イヤー受賞会社には表彰状およびトロフィーが授与され、受賞者はスピーチにて喜びを伝えていました。

■ 式次第

●表彰式

1. テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 挨拶
2. 独立行政法人 国民生活センター 総務部 管理室 室長 鈴木弘彦様 挨拶
3. ジャパンマニュアルアワード 2024 中原実行委員長による経過報告
4. 表彰式：奨励賞、学生賞、特別賞、優秀賞（表彰状・盾の授与）
5. 表彰式：マニュアル オブ ザ イヤー ノミネート賞（表彰状の授与）

●マニュアル オブ ザ イヤー選考会

1. ノミネート作品プレゼンテーション
 - (1) 株式会社アイシン
エネファーム type S 燃料電池ユニット
工事説明書
 - (2) 株式会社ニコン
ミラーレスカメラ ニコン Z 30
活用ガイド 見て聞くマニュアル Digitutor
 - (3) 株式会社ミットヨ
高精度高さ測定機 リニヤハイト LH-600F/FG ハードウェアガイド

2. ジャパンマニュアルアワード 2024 評価概要

- ・ジャパンマニュアルアワード委員会清水委員からの報告
- ・別室にて選考委員による選定協議

3. マニュアル オブ ザ イヤー発表および表彰

- (1) テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 挨拶
- (2) ジャパンマニュアルアワード 2024 中原実行委員長から発表
- (3) テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長から表彰状・トロフィーの授与
- (4) マニュアル オブ ザ イヤー受賞会社 挨拶
- (5) テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 講評



株式会社アイシンへのMOY表彰状授与の様子



MOY受賞した株式会社アイシンの記念撮影の様子

審査結果

■ 入賞マニュアル一覧

賞名称		マニュアル名称	応募会社	解説
マニュアル オブ ザ イヤー		エネファーム type S 燃料電池ユニット 工事説明書	株式会社アイシン	14
実行委員特別賞		ミラーレスカメラ ニコン Z 30 活用ガイド 見て聞くマニュアル Digitutor ※	株式会社ニコン	16
優秀賞	産業部門	高精度高さ測定機 リニヤハイト LH-600F/FG ハードウェアガイド ※	株式会社ミットヨ	17
優秀賞	一般部門	エネファーム type S 燃料電池ユニット 工事説明書 ※	株式会社アイシン	14
優秀賞	一般部門	大便器 アラウーノ V 圧送タイプ 施工説明書	パナソニック ハウジングソリューションズ株式会社	18
優秀賞	一般部門	アラウーノ小便器 施工説明書	パナソニック ハウジングソリューションズ株式会社	19
優秀賞	産業部門	THK OMNledge 直動部品 ユーザーズマニュアル AI コントローラ初期設定 (アクティベート) ガイド	THK 株式会社	20
学生賞	一般部門	ミラーレスカメラ ニコン Z 30 活用ガイド 見て聞くマニュアル Digitutor ※	株式会社ニコン	21

※ マニュアルオブザイヤーノミネート

賞名称		マニュアル名称	応募会社	解説
奨励賞	一般部門	PIXUS TS8730 設置・基本操作マニュアル、TS8730 Web 版セットアップマニュアル、TS8700 series オンラインマニュアル、TS8700 series プリンター活用術、TS8700 series 基本操作マニュアル、TS8700 series よくあるご質問、TS8700 series ソフトウェアガイド	キヤノン株式会社	22
奨励賞	一般部門	Wi-Fi 7 対応トライバンド Wi-Fi ルーター AirStation WXR18000BE10P シリーズ セットアップガイド、引っ越しガイド、ネット脅威ブロッカー 2 を使用するには、アンテナ設定ガイド、ユーザーマニュアル	株式会社バッファロー	23
奨励賞	一般部門	スマートクローゼット HCC-R600AL/HCC-R600AR 取扱説明書、かんたんガイド、設定変更ガイド、施工説明書	パナソニック株式会社	24
奨励賞	一般部門	くらしサポート歩行車 スムーディ 〈買物用〉 サービスガイド	パナソニック ハウジングソリューションズ株式会社	25
奨励賞	一般部門	チューナーメトロノーム TDM-710 取扱説明書、チューナーマイク TM-40 取扱説明書	ヤマハ株式会社	26
奨励賞	一般部門	ヘッドホン YH-5000SE クイックガイド、セーフティーガイド、チラシ、ユーザーガイド (HTML)、ヘッドホンスタンド HST-5000 取扱説明書	ヤマハ株式会社	27
奨励賞	一般部門	ヘッドホンアンプ HA-L7A クイックガイド、セーフティーガイド、ユーザーガイド (HTML)	ヤマハ株式会社	28

■ 応募数及び受賞数

ジャパンマニュアルアワード 2024 は、応募が 37 作品。

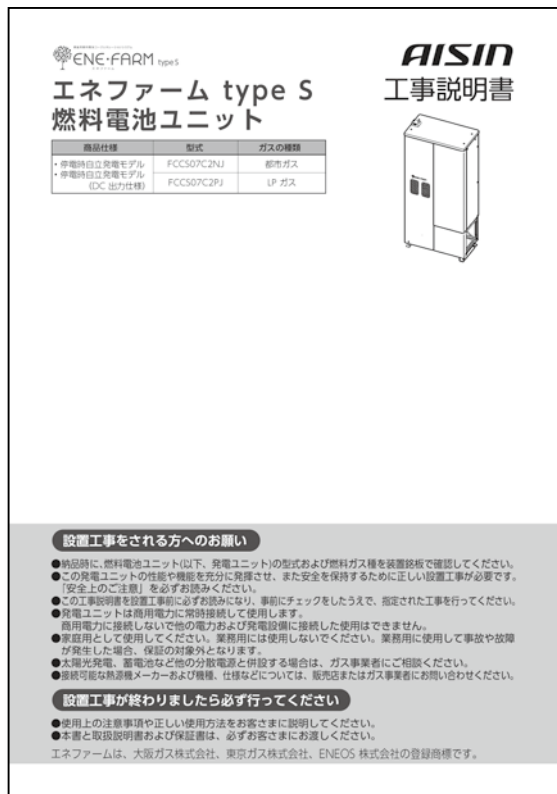
部門	応募数	受賞数			
		優秀賞	特別賞	学生賞	奨励賞
一般	31	3	1	1	7
産業	6	2	0	0	0
合計	37	5	1	1	7

入賞マニュアル解説

■ マニュアル オブ ザ イヤー ノミネート作品 マニュアル オブ ザ イヤー 受賞 優秀賞受賞

一般部門

エネファーム type S 燃料電池ユニット 工事説明書 株式会社アイシン



● 選考委員のコメント

本マニュアルがマニュアル オブ ザ イヤーを受賞した最大の理由は、改善の過程にある。社内にマニュアル制作の専門部署が立ち上がり、設計者が作成していた既存の施工説明書を改善するために、制作担当者自身が施工現場に足を運び、業者による施工と説明書が利用される実態をつぶさに観察して、課題や改善点を把握した点である。さらに、マニュアルの見やすさを向上させるために、

専門家のアドバイスを受けて改善に取り組んだ点もあげられる。

辛口のコメントとなるが、こうした改善過程はマニュアル制作の基礎基本だといえる。とはいえ、専門部署を立ち上げたばかりという社内状況を考慮すれば、担当者の熱意と努力は受賞に値すると考える。製品が使用される現場に赴き、利用される実態を確認することは、マニュアルの制作や

改善にとっては、必要不可欠な活動だと再認識することができた。

受賞したマニュアルについては改善の余地があり、具体的には、レイアウト・イラスト・色遣い

などビジュアル要素については、さらなる工夫すべきだというのが最終審査委員全体の一致した見解である。今後の取り組みに期待する次第である。

● 2次審査委員の解説（シンポジウム展示パネルから転載）

完成度が高く、施工マニュアルのお手本になるマニュアルに仕上がっている。目次が作業の流れになっていること、各章の冒頭に章内の作業フローが記載されていること、大きな爪見出しがあることなど全体が俯瞰でき、探したい情報にたどり着きやすい構成になっていることが高く評価された。また、マニュアルの冒頭に安全上の注意事項がまとめられ、さらに作業工程ごとに注意事項が記載されているので、作業者が各工程で気をつけるべき内容を容易に理解できるように配慮されている。文字サイズやイラストサイズが適切で見

やすい。イラスト内には手順番号が付与されているので、イラストと連動して手順を読み進めていくことができ、読み手に安心感を与える。

一方で、マニュアルの見方を説明しているページがないため、イラストと手順が連動しているなどの工夫がマニュアルを読み進めていくまで気づくことができない。また、イラストのスミアミが全体的に濃く、説明対象が目立っていないイラストが見受けられる。マニュアルの見方の説明を冒頭に入れる、イラストの配色を変更するなどさらなる改善を期待する。

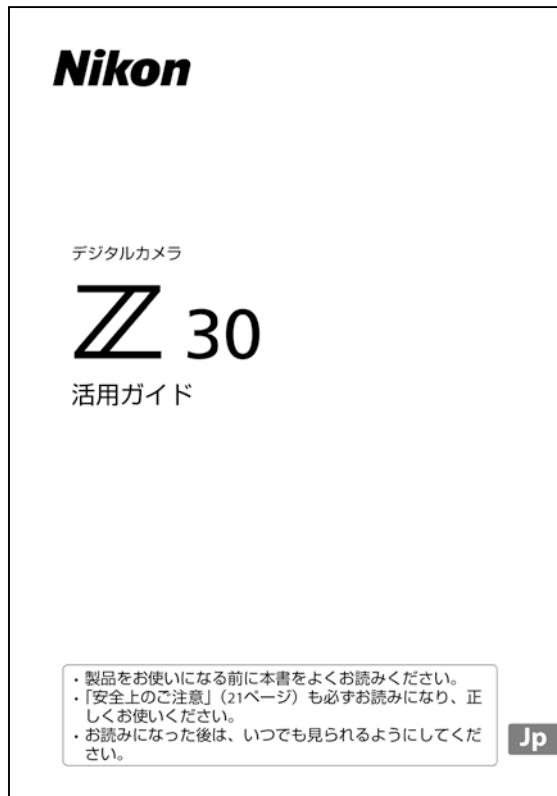
■ マニュアルオブザイヤー ノミネート作品

実行委員特別賞受賞

一般部門

ミラーレスカメラ ニコン Z 30 活用ガイド 見て聞くマニュアル Digitutor

株式会社ニコン



本作品は、見て聞くマニュアル Digitutor (動画) 2本が高く評価されて、実行委員特別賞と学生賞を受賞し、マニュアルオブザイヤーノミネートに選出された。高く評価された動画は、使用目的に沿ってカメラの機能を紹介・説明するだけでなく、撮影技術(三脚と手ブレ防止機能の関係や、ストラップを使った手ブレ防止方法など)や表現手法(ヨリとヒキカットの組合せなど)を合わせて説明している。

さらに、説明内容の一覧表示、説明内容の確認、丁寧なナレーションなど、長い動画でも理解を深

め検索性を高くする表現が使われている。製品ターゲットユーザーである初めてミラーレスカメラを購入した20～30歳代が、興味を持って見ていられる内容となっている。活用ガイド(PDF版、Web版)は、PDF版562ページと多く、その内容をWeb版にしている。取扱説明書にあたる内容であるため、マニュアル名を「取扱説明書」に変更し、また紙マニュアルのレイアウトの延長で作成されていることから、PDFやWebの媒体を活かした内容に改善するとさらに良くなると思われる。

■ マニュアルオブザイヤー ノミネート作品

優秀賞受賞

産業部門

高精度高さ測定機 リニヤハイト LH-600F/FG ハードウェアガイド

株式会社ミットヨ



確実に網羅された安心・安全情報、派手さはないものの、産業機器マニュアル然とした色使い、統一された見出しや操作手順パターンなど、わかりやすさへのこだわりが徹底されているマニュアルである。章ごとに扉を設け、目次を入れている点から探しやすさも配慮されている。

一方で、概要の情報不足により、何ができる製品なのかわかりにくいといった課題が見られた。

このマニュアルでは説明動画への取り組みにも注目したい。全コンテンツに共通する内容としては、画面右下にある全工程のステップ、現在のス

テップ番号、現在の作業内容が表示される点が評価された。個別の評価としては「2.3 固定用金具の取り外し・プローブの取り付け」の評価が高かった。紙の取扱説明書では、なかなか読んでもらえない警告メッセージに関連する内容を動画に盛り込み、どの程度の注意が必要なのかを理解しやすい内容になっている。ただし、この「2.3 固定用金具の取り外し・プローブの取り付け」は紙の取扱説明書では、警告メッセージが最後に記載されているなど、動画との構成の違いが気になった。

優秀賞受賞

一般部門

大便器 アラウーノV 圧送タイプ 施工説明書

パナソニックハウジングソリューションズ株式会社



施工説明書の構成は、「施工チャート」を中心に詳細施工手順が展開されており、施工手順全体が把握しやすい。施工手順説明ページの右上に記載されている施工手順の流れは、残りの作業量を「見える化」する工夫がされている。改訂履歴については、熟練のエンジニアであれば変更点のみ確認して施工が可能であり、作業効率化への配慮が感じられた。

改善点があるとすれば、改訂がない＝「空欄」とするより、「ー（ハイフン）」等で、記載事項がない

ことを明確に伝えるとよい。「施工前の確認」にオプションについての記載があるが、オプションの購入方法について案内があると親切である。施工完了チェックリストには設置前に把握しておきたい内容も含まれているため、記載箇所の検討により、さらにエンジニアの効率化を配慮した施工説明書になるだろう。

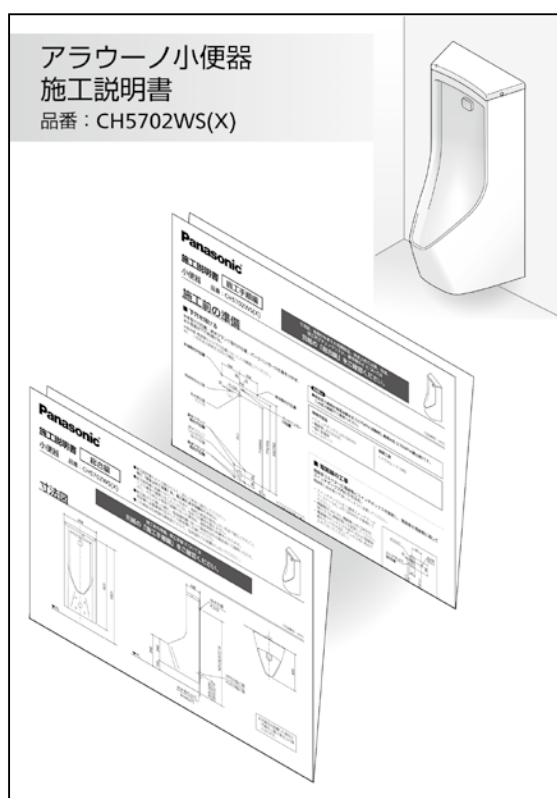
製品に同梱されている実寸大の施工型紙は、本体位置、ねじ固定位置を採寸せず設置が可能であり、施工の補助役として非常に有効である。

優秀賞受賞

一般部門

アラウーノ小便器 施工説明書

パナソニックハウジングソリューションズ株式会社



個人宅から小規模施設まで設置可能な、人体検知センサー付き小便器の施工説明書である。

マニュアルは A3 両面で「施工説明書（総合編）」および「施工説明書（施工手順編）」の 2 枚構成となっており、安全情報や各部のなまえなどの基本的な情報は総合編に、施工方法は施工手順編に記載されている。

基本的に、作業者は施工手順編を読めば施工できるように工夫されている。寸法図や各工程に対して十分な数と大きさのイラストが使われてお

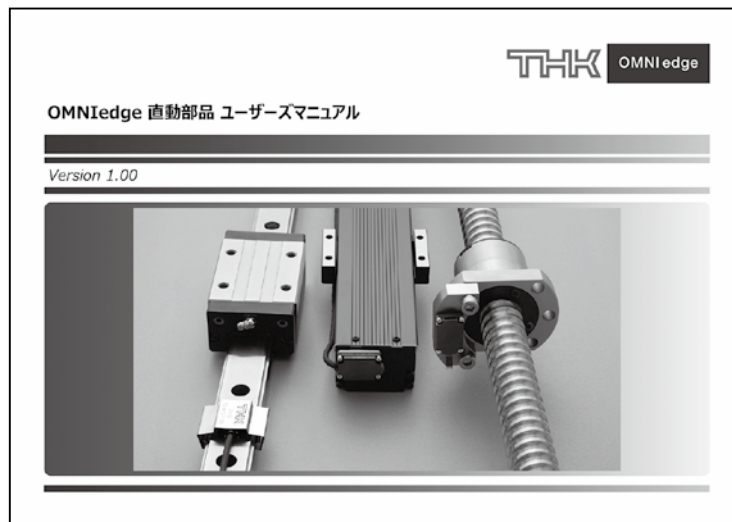
り、適度な余白も確保されていることが読みやすさ、わかりやすさにつながっている。見出しのフォントサイズや強調表現のデザインなども、詳細情報と識別しやすいようにデザインされている。

また、確実な施工にするために、施工完了のチェックリストが準備されていることも評価された。わかりやすいイラスト、余白、緩急のついたフォント・デザイン選定が「これなら簡単に施工できそう」と思わせる効果を生み出しており、省施工設計の製品にふさわしいマニュアルとなっている。

優秀賞受賞

産業部門

THK OMNIedge 直動部品 ユーザーズマニュアル AIコントローラ初期設定 (アクティベート) ガイド THK 株式会社



本マニュアルは、HTML で制作されたコンテンツをデバイスで閲覧するマニュアルである。

アクティベートガイドからユーザーズマニュアルへと時系列に沿って誘導され、スムーズな装置導入・操作に配慮がなされている。特にユーザーズマニュアルは、非常に充実した記載内容で、繰り返し読むユーザーにとって頼りになるマニュアルとなっている。製品概要の情報がわかりやすく、全体像を把握しやすい点も好評であった。

加えて、動画マニュアルへの誘導、アニメーションでの補完、検索窓を使ったキーワード検索など、WEB 閲覧のメリットを活かしたより良いマニユア

ルへの取り組みが高く評価された。

一方で、本文を読み進めた段階で動画の存在に気付くため唐突感がある。目次などにカメラアイコンを付けると、ユーザーが早期に気付くことができ、親切である。

また、表示するデバイスによっては文字とイラストの大きさのバランスが崩れている。ブラウザ推奨サイズを記載する、フォントサイズを上げるなど、機能的で使いやすいコンテンツにするための改善を期待する。

受賞

●学生賞受賞

一般部門

ミラーレスカメラ ニコン Z 30 活用ガイド

見て聞くマニュアル Digitutor

株式会社ニコン

学生賞は、2次審査で選出された作品に対して審査協力の3大学の学生により審査され、決定されます。本年度は、神奈川大学（高野倉雅人教授研究室）、常葉大学（安武伸朗教授研究室）、千葉工業大学（安藤昌也教授研究室）の合計20名の学生により審査が行われました。

株式会社ニコン、ミラーレスカメラ「ニコン Z 30」は、日常の様子を撮影するVlogなどの動画撮影に焦点を当てたカメラです。活用ガイドにはPDF版とWeb版があり、Web版からは「動画で見る」のメニューから動画での解説やチュートリアル、活用のためのコンテンツが提供されています。

特に学生から評価されたのは動画です。基本的な使い方を解説する動画では、実際に手に持って操作する形で説明がなされており、ハードの操作と画面のインターフェースの変化を実物と同様に見られる点が評価されていました。

動画の中には、マニュアルと同様の情報を提供する動画に加え、プロカメラマンが撮影のコツやテクニックを教えてくれる動画コンテンツが複数提供されています。これらの動画は、まるでYouTubeなどの投稿コンテンツのように、プロカメラマンの方が語りかけ、実際にやってみせる形式のものになっています。主体性のある登場人物が説明する形式は、「初心者にもわかりやすい」と感じたようです。例えば、ホワイトバランスを変更するとどのような映像が撮影できるのかをプロカメラマンが実

践して、その色味の変化を見せた後、取説動画が挿入される形式になっています。

また、動画が10分を超えるものもあり「長いと感じたが、最初に見出しがあり動画がチャプターで区切られていて良い」など、動画に慣れ親しんだ世代にとって、こうした配慮は重要だと評価されました。一方、「1.5倍速で見たが、個人的にはそれでちょうど良い」や「ショート動画に慣れている20代をターゲットにするなら、もっとテンポが速いと視聴意欲が湧く」といったコメントがありましたが、「解説がゆっくりだったので、実際に操作をしながら見られるので良い」といったコメントもありました。

一般的な取説動画とは一線を画すニコンの作品は、動画を撮影するカメラだからこそ動画で解説する意義が伝わるものになっていたと思います。今後も学生賞にご期待いただければと思います。

●奨励賞

一般部門

PIXUS TS8730 設置・基本操作マニュアル

TS8730 Web 版セットアップマニュアル

TS8700 series オンラインマニュアル

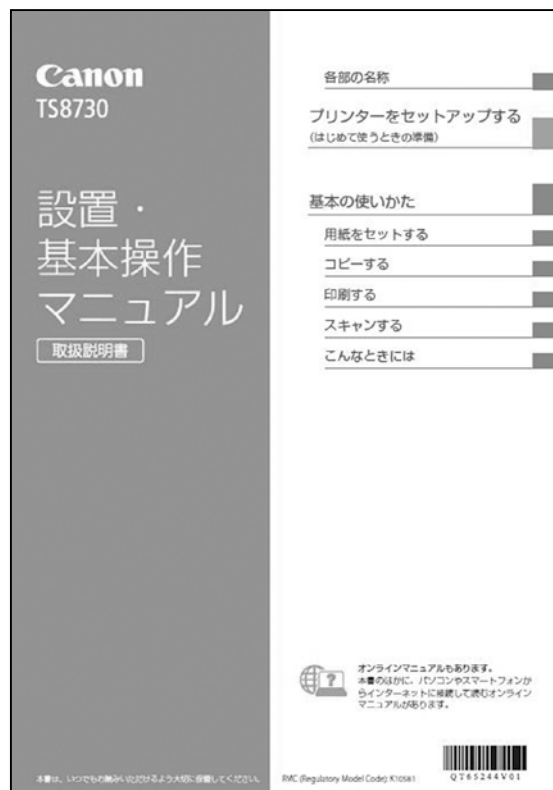
TS8700 series プリンター活用術

TS8700 series 基本操作マニュアル

TS8700 series よくあるご質問、

TS8700 series ソフトウェアガイド

キヤノン株式会社



本体同梱の冊子マニュアルと、webのオンラインマニュアルが審査対象である。

【冊子マニュアル】

「紙つまり」、「インクの交換」などの問題解決のための説明（「こんなときには」35ページ〜）に多くのページをさいている点が、高評価を得た。

ただ、「電源オン」の説明に対して「オフ」の操作説明が無く、正しく電源をオフしなかった場合どうなるのかが伝わりにくい。また、電源ボタンを押してから次の操作を行うまでにどれくらい時間がかかるのか、本体が動く（トレイがひっこむ）のかなど、操作による製品挙動の説明が無いなど情報の不足が指摘された。国際規格IEC82079-1の要求を満たしていない部分もあり、今後の改善を期待する。

【オンラインマニュアル】

オンラインマニュアルは比較的わかりやすく、操作性もよい。

「トラブルが発生したときは」が上部に記載されているのは非常によい。

「よくあるご質問」の「TOP6」もユーザーに寄り添っておりよい。

●奨励賞

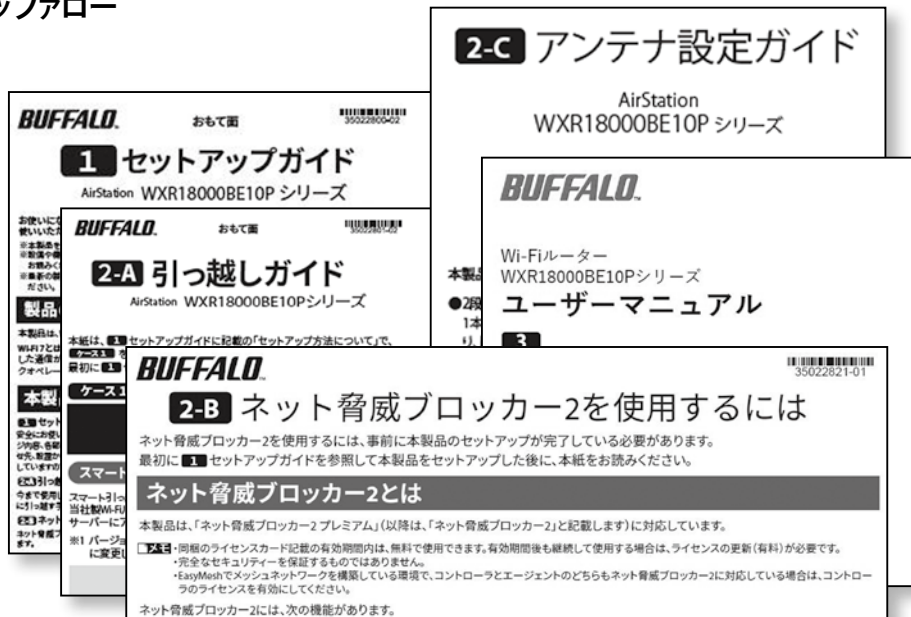
一般部門

Wi-Fi 7 対応トライバンド Wi-Fi ルーター

AirStation WXR18000BE10P シリーズ

セットアップガイド、引っ越しガイド、ネット脅威ブロッカー 2 を使用するには、
アンテナ設定ガイド、ユーザーマニュアル

株式会社バッファロー



製品に同梱されている 5 種類の紙マニュアル (シート) と、より詳細な設定情報を確認できるユーザーマニュアルが HTML および PDF マニュアルで構成されている。

アンテナ設定ガイドでは、全体的にイラストやフォントも大きく、ユーザーが重要なアンテナ向きを理解しやすいように配慮されており、審査対象のマニュアルの中で高評価だった。

一方で、セットアップガイドなどは、情報量に対してマニュアルのサイズも小さいため読みにくい。また、「各部の名称とはたらき」では、各部のイラストが小さくどこを指しているかわかりにくく、探しにくい。

ネット脅威ブロッカー 2 のマニュアルは、無料期間が 1 年間であることが記載されていない。ライセンス情報を記載するところにライセンス有効期限とあり、ライセンスの更新 (有料) が必要となっている。ユーザーに確実に伝える必要がある情報であればマニュアルに記載すべきである。

アンテナ設定ガイド以外のマニュアルは、ユーザーにとって読みやすさや探しやすさの改善が必要である。

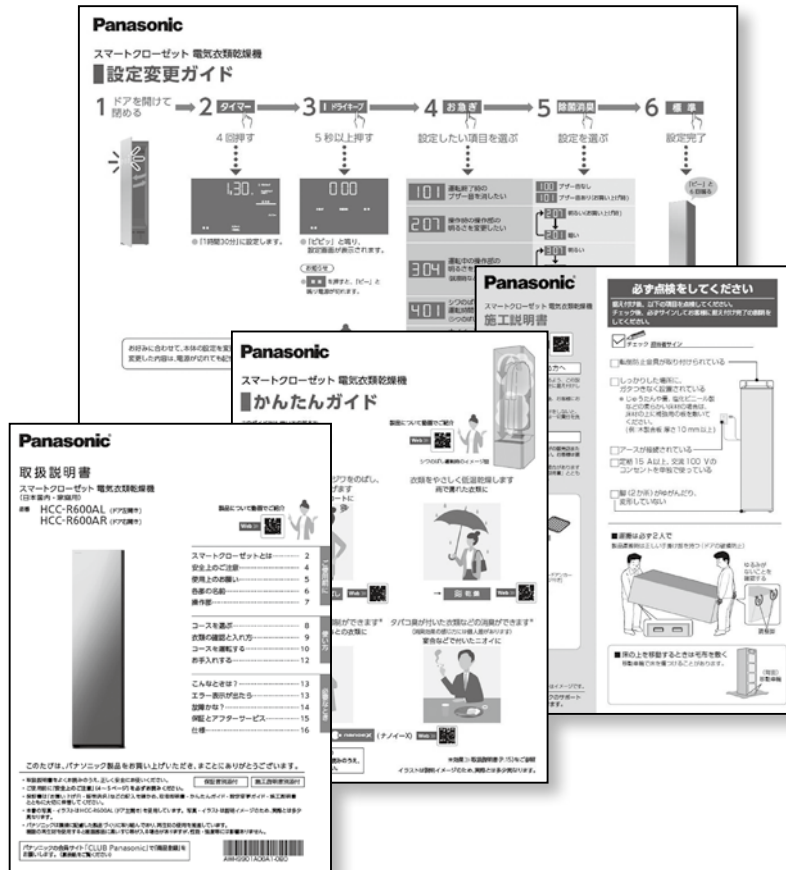
●奨励賞

一般部門

スマートクローゼット

HCC-R600AL/HCC-R600AR 取扱説明書、かんたんガイド、設定変更ガイド、施工説明書

パナソニック株式会社



取扱説明書とかんたんガイドは落ち着いたトーンと配色とシンプルな統一感があるイラストによりわかりやすい印象にまとまっています。

この使用説明のポイントは、利用者が使えない衣類を判断できるかです。例えば、革製品ではないシューズは棚に置き乾燥や除菌してよいのかわかりません。スチームと乾燥で熱の発生方式が異なることによる注意の違いがわかるように説明があると、ユーザーが勘どころを捉えることができ判断しやすくなるでしょう。

さらにこの製品は、個人宅で特定少数の人が繰り返し利用する場合と、ホテルなどでの設置で不特定多数の人が初めて利用する場合で、場面が違います。それぞれの場面に応じた内容と情報量の説明が必要です。

●奨励賞

一般部門

くらしサポート歩行車 スムーディ〈買物用〉 サービスガイド

パナソニックハウジングソリューションズ株式会社



サービスガイドは、メンテナンス対象にすぐに辿り付けることが重要である。「分解・組み立て方法」の扉もくじに、時系列でメンテナンス対象が記載されており、保守の全体像が把握しやすい。

また、交換部位ごとに「分解・組み立て方法」および「使用工具」が明記されており、必要な情報を探しやすい点が好評だった。全体的にテクニカルイラストが正確で、細かい作業は拡大図で補足が入るなど、多くの説明がなくても図を見れば分解・組み立てができる点が、メンテナンス業者にとっては良い。

このサービスガイドは、部品発注時 / メンテナンス時 / 部品交換時に読まれるが、「同梱物 (本体 / 付属品)」と「消耗品」の書き分けが不明瞭である。また、高齢者向け商品であり安全面への配慮が不可欠なため、ブレーキの高さ調整後にブレーキの利き具合を確認するなど、「保守後のチェック項目」についても検討が必要である。

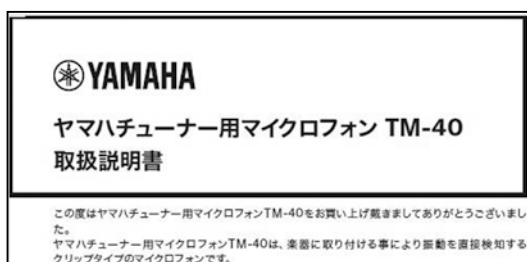
●奨励賞

一般部門

チューナーメトロノーム TDM-710 取扱説明書

チューナーマイク TM-40 取扱説明書

ヤマハ株式会社



TDM-710 のマニュアルは全体的に構成が整っており、特に【♪ note】や【上手な使い方】を活用して、初心者が疑問を解消しやすい工夫がされている点が評価できる。また、A3 サイズのレイアウトに情報がうまくまとめられており、片面で必要な内容を確認できるため、使い勝手が良いと感じる。【練習に役立つ機能】セクションも、実際に役立つ情報がわかりやすく記載されており、初心者にも使いやすい印象を受けた。一方で、対象ユーザーを踏まえた取扱いに関する記載がされていない点、ボタン表記と【♪ note】表記等の形状が似ているため、誤解を招く可能性がある点は改善が望まれる。全体的に見て、初心者に対する配慮が行き届いたマニュアル

だが、さらなる工夫で使いやすさが向上すると考える。

TM-40 のマニュアルは、機能説明に大きなイラストを用いて視覚的にわかりやすくしている点は評価できるものの、全体として改善の余地が多い。フォントサイズが小さく読みづらいため、ユーザビリティが低下しており、特にチューニング法の説明が簡素で初心者には理解しづらいつと感じた。また、注意すべき行為に関する具体的な説明が不足しており、安全面での配慮がもう少し必要だと考える。全体として、わかりやすさに一部の工夫は見られるものの、改善が求められるマニュアルである。

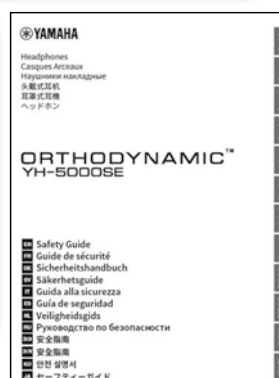
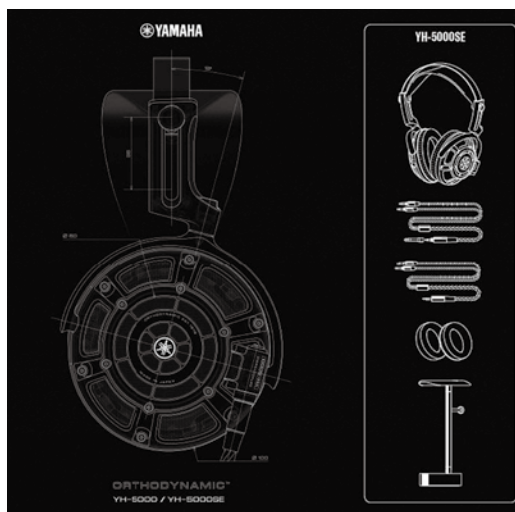
●奨励賞

一般部門

ヘッドホン YH-5000S クイックガイド、セーフティーガイド、チラシ、
ユーザーガイド (HTML)

ヘッドホンスタンド HST-5000 取扱説明書

ヤマハ株式会社



圧倒的な音質を実現したフラッグシップヘッドホンのマニュアル一式が審査対象である。

その中で、「クイックガイド」の完成度が評価され「奨励賞」となった。高品質なデザインは、製品の世界観に合っており、新製品に対する期待感を十二分に演出できている。イラストだけで使いかたを説明している点も、全世界に向けた商品であることを示しているようで商品価値を高めることに前衛的に貢献している。

使用情報全体としては、改善点が多く高評価にはならなかったが、ヘッドホンは使いかたが簡単なので、使用情報としての完成度より、製品のアイデンティティーがうまく表現できていることの方が重要なかもしれない。

「クイックガイド」のデザインは、そのようなことを考えさせてくれたと言える。

●奨励賞

一般部門

ヘッドホンアンプ HA-L7A クイックガイド、セーフティーガイド、
ユーザーガイド (HTML)
ヤマハ株式会社



オーディオ機器やパソコン、タブレットなどの音声を高品位に再生するヘッドホンアンプのマニュアル一式が審査対象である。

その中で、「クイックガイド」の完成度が評価され「奨励賞」となった。もくじ構成やマニュアルの紹介が適切であること、Web マニュアルへの導線がスムーズであること、そして説明自体も非常に分かりやすくこれだけで十分に製品を使えること、の3点が高く評価された。

一方で、Web マニュアル (ユーザーガイド) については、音の処理に関する説明がほとんどされていない点が厳しい評価につながった。各モードにおいて、DSP はどのように処理されているのか? といった原理の説明は、音質にこだわるユーザーへの配慮として、是非入れて欲しい。

選考委員コメント

安藤 昌也 千葉工業大学 先進工学部 教授

年を追うごとに、ジャパンマニュアルアワードの3次審査の難しさを感じております。その理由の一つは、各社の作品のレベルが向上し指摘できる基本的な課題がないものが増えたことが挙げられます。これは、応募くださる各社の不断の努力の成果と言えます。もう一つの理由は、ユーザー視点を追求した独自の表現や工夫をした作品が増えてきていることが挙げられます。

こうした作品の審査では、実ユーザーの利用状況を想定しながら評価する必要があり、審査員の側が試されているようです。しかし、従来のマニュアルのあり方にとらわれず、新しい工夫でユーザーを支援しようという取り組みには、毎回心躍るものがあり今後も期待しています。

また、今年の審査でも動画を伴った作品が複数ありました。昨年度の審査コメントでも書きましたが、動画を用意すればそれだけでわかりやすくなるわけではありません。その点、株式会社ミットヨ、高精度

高さ測定機リニヤハイト LH-600F/FGハードウェアガイドでは、わかりやすく工夫された動画が提供されています。これは、2022年マニュアル オブ ザ イヤーを受賞された時の動画の解説より、さらに一歩発展した表現となっており、動画での解説表現の努力が感じられました。

ただし、逆に紙の取扱説明書と食い違う部分、例えば作業ステップの区切り方に違いがあり、気になりました。確かに動画での説明では、一連の流れで説明する方がわかりやすく、一方、紙で説明する場合は、意味の単位で作業を区切った方がわかりやすいと考えられます。今後、動画による表現が拡大していく中で、こうした食い違いが増えていくかもしれませんが、今後の展開を見守っていきたいと思います。

今後もユーザー視点での新しいチャレンジに期待しております。

3次審査に上の作品は全て、受賞歴を持つ企業様により制作されたもので、完成度がとても高いと感じました。この難しい審査で感じたことをご紹介します。

気になったことは完成度は高いが、評価が過去より下回った作品が複数見られたことです。取説の表現、レイアウトなどの基本テイストは過去の作品と同じように見えますが、違和感がある。細部を拝見すると、“簡潔でない”等の気になる点が複数あります。

良く「暗黙知 (tacit knowledge) を形式知 (explicit knowledge) として展開・共有し、知識継承を絶やさないと重要だ」と、見聞きします。担当者の暗黙知に依存する製品の場合、例えば“センス”に分類されるような知識は特に、後任の担当者に引き継が

れ難く、いつの間にか消失するリスクがある、と言われます。

ある辞書はセンスを「感覚」と定義しています。“明瞭性”、“検索性”など、取説に必要な機能とそれらの要求事項は規格が明示するので、担当者は皆知っている情報です。しかし実際の取説を見ると、多彩な書き方、表現、見せ方があり、規格要求を具現化する方法は多様であることが判ります。経験を含む暗黙知が製作者によって異なるからでしょう。

以前より評価が下回った作品は、ご担当者が異なるかは不明です。例え同じ方であっても、暗黙知に由来する成果にはバラツキが生じる恐れがあります。設計、加工及び製造だけでなく、取説作成部門においても暗黙知を形式化し共有、評価する体系的な仕組み作りが重要になるかもしれません。

マニュアルアワード3次審査を担当させていただくのはこれで3度目となります。紙とウェブ上の動画を連動させる手法など、一通りの目新しさは定着してきた感があります。今年は、それをどのように設計、デザインし、わかりやすく演出していくかというところに、制作者の方々が工夫を凝らしておられることを感じました。

株式会社ニコン、ミラーレスカメラニコンZ30は、紙のマニュアルを読みたくない人にとってとても助かるものだと感じました。単なるマニュアル動画ではなく、撮影について「詳しい人に教えてもらっている」という感覚になれる演出であり、メインの進行役の親しみやすさと、淡々と説明をする人を分けていることも、ユーザーが動画を見続けることが嫌にならない工夫だと感じました。

株式会社ミットヨ、高精度高さ測定機リニヤハイトLH-600F/FGは、動画のクオリティーが高く、動画単体で見れば注意事項も伝わりやすく秀逸でした。ただ、紙と動画の連動に課題があると感じました。動画にある禁止事項が紙では見つけられない例もあり、安全性に関わる部分の連動、整合性を見直すなど、今後の改良に期待します。

受賞されたいずれのマニュアルも、制作者の工夫とご努力の賜物と思います。テクニカルコミュニケーションの更なる発展に期待しています。



ジャパンマニュアルアワードの最終審査をさせていただき、ありがとうございました。昨年同様、紙と動画のマニュアルがリンクした作品がほとんどでした。今回、動画のマニュアルについて、2点気になりました。1つめは、もくじやチャプターがないものは、探したい情報が見つげにくく、製品の説明としては冗長に感じました。2つめは、やっていいこと・やらないでほしい危険なことを同じ調子で表現していると、使う人の安全を考えると心配になりました。

次に、評価の高かった作品について、僭越ながら、惜しいと感じた点を書かせていただきます。

株式会社アイシンの作品は、故障する配線のしかたがある場合に（逆配線）どの部分のことを言っているのかがよくわかりませんでした。動画も含め、やってはいけないこと・危険についての啓発は、警告の観点でも表現を検討されたほうが良いように思いました。

株式会社ミットヨの作品は、動画マニュアルで紙のマニュアルではできない、動画の可能性を感じましたが、作業者に危険がある点は、もっと明確に注意喚起したほうがよかったですと思います。

株式会社ニコンの作品は、初めて動画撮影をする人のための動画で、字幕と説明の要約が親切でしたが、タブや見出しがないので、10分間の動画で自分の知りたいところを見つけるのは難しく感じました。知りたいところに直接アクセスできるような工夫もしていただけるとよかったですと思いました。

昨年に引き続き、JMA2024の3次審査にて各社マニュアルを審査させていただきました。既に取扱情報の電子化は当然のこととなり久しいですが、今年も各社、電子媒体によるさまざまな工夫をしたマニュアルが揃ったという印象です。

電子媒体での情報発信が当然のこととなった昨今、同じ電子媒体でも、さらに次なる段階へ進化させていくことが必要となったのが現在だと思えます。しかし進化させたくとも、当然製品や商品によってその限度や制限があるものもあり、そのとこ

ろを評価に回る我々も留意しないといけないと思っており、審査の難しい部分だと思えます。

ただ、やはり工夫が秀逸であったり、着眼点や振り切り方に納得いくものがあり、今回選ばれたマニュアルも、それに該当していると思っております。

今後もますます各社皆様の研鑽を期待致します。

鈴木 弘彦 独立行政法人 国民生活センター 総務部 管理室 室長

最初に、エントリーいただいた事業者の皆様、運営にご尽力いただいた皆様に御礼申し上げます。

昨年に引き続き、今年も審査対象13作品の主流はウェブ動画やPDFを用いた電子マニュアルとなっていました。そのため、3次審査会では電子マニュアルとしての見やすさ等の違いについて、多くの作品を対象に比較することが出来ました。その中で、特に印象に残った作品が2つありました。1つはターゲットユーザーを意識したYouTube風の動画になっているもので、動画中の文字数など情報量が適切であると感じました。また、この作品は使用者目線でのカメラ

アングルが秀逸で、操作方法等が非常にわかりやすく表現されていました。もう1つは誤使用によって生じる事象を動画で再現している作品です。この表現によって、使用者は誤使用のリスクをより正しく理解できるかと思えます。いずれも電子マニュアルならではの特色を生かした作品と言えるでしょう。

今年も今後の電子マニュアルの可能性を感じることが出来た審査会となりました。来年以降、より進化した電子マニュアルがエントリーされることを期待しています。

今年のMOYノミネート作品は一般部門が2作品、産業部門が1作品であった。一般部門のうち1作品は優秀賞を受賞してはならず、実行委員特別賞と学生賞の2賞を受賞した株式会社ニコンの「ミラーレスカメラニコンZ30活用ガイド」である。優秀賞を受賞していない作品がMOYにノミネートされるのは、私の審査委員経験では初めてだと記憶している。非常に珍しいことだが、動画がトリセツ的でない切り口で作られていたことがノミネートの理由となったように思う。2分を超える動画は最後まで見続けないユーザーが多くなるというのが私の認識であったのだが、この作品にはいい意味で期待を裏切られた。この作品の動画は10分を超えるものも含まれていた。にもかかわらず、その動画を、私は飽きずに最後まで見続けることができた。制作に時間とコストがかかったであろうことは想像に難くない。ある意味お手本

となる作品であると思う。残念ながらこの作品はMOYとはならなかった。

昨年のMOY審査が、その時点までで一番時間を要したことを、私は今年のFrontierに書いた。しかし、本年はさらにそれを上回って、今までで一番時間を要したのである。当日結果を待っておられた皆様を、予想外にお待たせしたことをここにお詫びしておきたい。株式会社アイシンの「エネファームType S燃料電池ユニット工事説明書」と株式会社ミツトヨの「高精度高さ測定機リニヤハイトLH-600F/FGハードウェアガイド」のどちらを選ぶか、侃々諤々と議論をたたかわせ、最終的に、株式会社アイシンの作品をMOYに選出した。しかし、正直なところ、個人的には、今年はMOYを選出したくはなかったことをここに告白しておく。

本年も、3次審査に参加させていただき、優秀賞5点、特別賞1点、奨励賞7点のマニュアルを拝見いたしました。

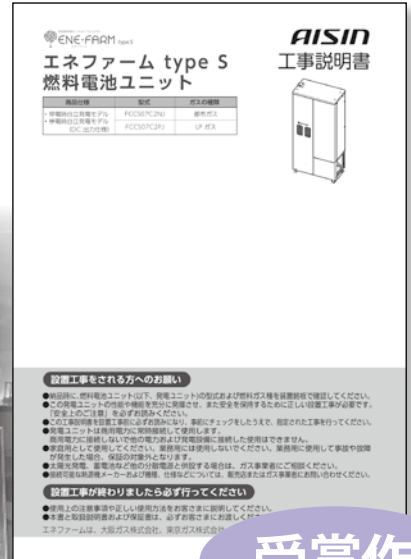
ここ数年の傾向と同様に、優秀賞は、施工説明書や産業機器マニュアルが主流であったように思います。とはいえ失礼ながら、びっくりするような斬新さや「そうきたか!」といった工夫を感じることはできませんでした。もちろん、どのマニュアルも、現場からの情報を収集して、施工時や使用時の「作業しやすさの向上」や「取り扱い間違いの解消」に資する工夫や改善が施されており、それらが評価されて優秀賞に値することには間違いありません。本アワードは、審査員を「びっくり」させることや奇想天外さを競うものではないことは承知しているつもりです。マニュアル制作の基本を踏まえ、「わかりやすく」「つかいやすく」「みやすく」を実現したマニュアルが、その年のマニュアル オブ ザ イヤーとして選出されるべきだと思っています。しかしながら、どこかで「イノベティブ」さを期待しながら審査していることも確かです。異なる領域の製品やサービスのマニュアルにも活用できるようなイノベティブな取り組みや工夫を、マニュアル オブ ザ イヤーを通じて発信できればと、願う次第です。審査員の心の中を吐露するようなコメントになって恐縮ですが、基本に忠実な手堅さとともに、ブレイクスルーとなるイノベティブさの実現、を本アワードに、改めて期待してしまいます。

もう一点、奨励賞は、一般消費者を対象とした情報機器や家電製品のマニュアルが多いと感じました。昨年度のコメントで「一般消費者向け製品のマニュアルは『成熟期』を迎え…」と述べましたが、まだまだ「伸びしろ」のあるマニュアルが応募されていることが印象的でもあり、「謎」でもありました。他の審査委

員や実行委員の方々からは、新しい世代のライターがマニュアル制作を担当なさるようになり、成熟したマニュアルが継承されていない部分がある、とのコメントを伺いました。具体的な現場の様子を存じていないので、余計なコメントは控えたいと思いますが、「成熟したマニュアル」を踏襲するだけでは、優秀とならない厳しさが、マニュアル制作にはあることに気づかされた次第です。次世代のテクニカルコミュニケーター育成にとって、何が必要なのかといった、ディスカッションが、シンポジウムで展開されることを期待する次第です。

好き勝手なことばかりを申し上げましたが、3次審査を終えて、10月の最終審査を楽しみにしております。

株式会社アイシン



受賞作

E-VC事業推進部 企画推進室
商品価値向上グループのメンバー

■会社概要

愛知県刈谷市に本社を構え、自動車部品やエネルギー・住生活関連製品の製造販売を行うグローバル企業です。アイシンは、「“移動”に感動を、未来に笑顔。」を理念に掲げ、モビリティの電動化やクリーンパワーを通じて、より良い環境づくりへの貢献を目指しています。



■商品価値向上グループについて

私たちのグループの担当業務は主に二つあります。

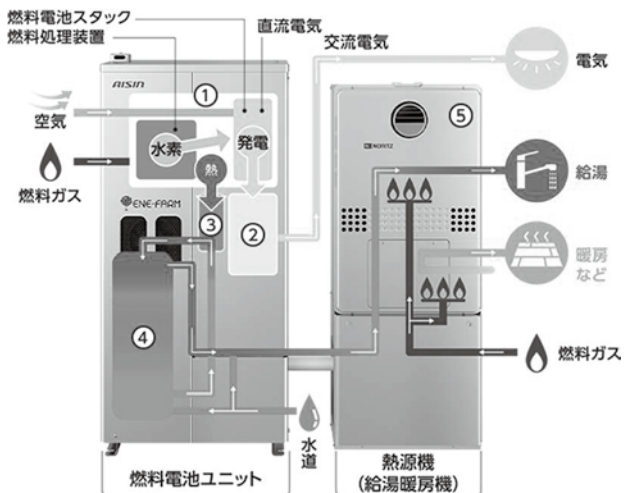
一つ目は、エネファームの施工改善業務です。現場の困りごと解決、施工検証や施工の標準化など、営業技術支援なども行っています。

二つ目は、取扱説明書や工事説明書、サービスマニュアルやパーツカタログなどの製作業務を行っております。

■商品紹介

エネファームの特長は、空気中の酸素とガスから得られた水素との反応によって、熱と電気を生み出すことができます。得られた熱と電気は家庭で使用でき、環境性やCO2削減に貢献します。また、台風などの停電時にも電気を使うことができ、光熱費の削減にも寄与します。これまでに累

計20万台(2024年4月時点)を製造・販売させて頂いております。



■施工の特長

エネファームの施工には、水・電気・ガスの工事が伴い、施工時間は3～4人で約1日かかります。設置条件や試運転など、エネファーム独自の知識が必要となるため、工事説明書は重要な役割を果たしています。



■背景と問題

エネファームの施工現場では、試運転のやり方やエラー時の対処方法の間違いにより、施工時間

が長引くことが問題となっていました。従来のマニュアルは設計者が製作していたため、現場での実用性に欠けていました。

■改善策の検討

●使いやすいマニュアルとは何か？

現状把握をするため、3か月間、施工現場を調査し、施工業者と同じ目線に立って、改善方法を検討することにしました。

●見やすいマニュアルとは何か？

社内に知見者がいなかったため、専門会社と協力することで、見直しを検討することにしました。

■主な改善策

①全体の構成の見直し

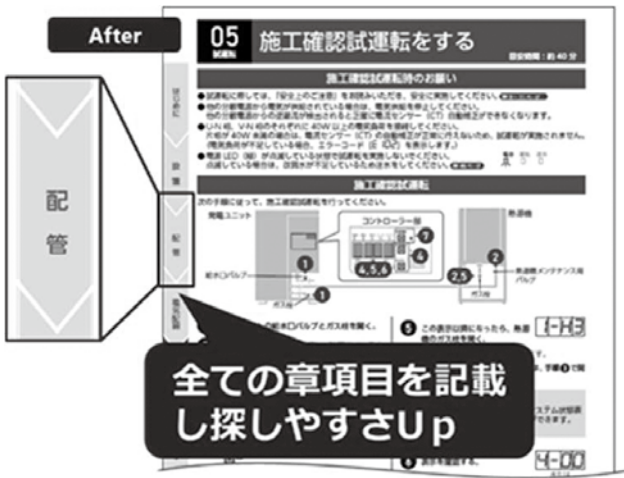
施工現場では、各工事業者がそれぞれの担当作業を行っており、情報が必要な場面やタイミングが異なることが分かりました。そこで、目次で工事全体の流れを、章ごとに各工事の流れを記載、続いて工事の作業へと情報を整理しました。また、作業前に必要な情報と作業時に必要な情報を分けることにしました。



②工事説明書の使われ方

現場で工事説明書が使われる場面は、分からない時に調べることが大半であり、目次は使われることがなく、パッと開いてからページをめくって探していました。そこで、つめ見出しにすべての章項目を記載しました。そうすることで、前か後かどっちへ

ページをめくってあげれば良いのが分かりやすくなりました。



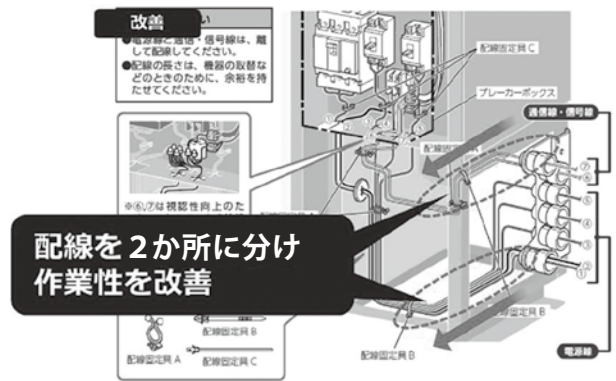
③直感的にわかりやすく

現場では日陰など読む環境が悪く、コントローラーのボタン操作を位置で把握していることが分かりました。まず、改善前は文章主体だったのに対し、作業箇所をイラストで表現するなど、直感で分かりやすい構成に変更しました。また、ボタン操作については基盤上の文字が見えにくいため、現場ではボタンの位置で把握しており、「下2つのボタンを同時に長押ししてっ!」と呼び合っていました。そこで、下2つ同時と、そのまま表現する事で直感的に分かりやすくなりました。



④配線作業について

実際の施工現場では配管や配線のレイアウトがさまざまであり、作業性が悪いケースがあることが分かりました。まず、イラストに明暗をつけ、作業箇所を特定することで分かりやすくなりました。更に、配線経路を一から見直し、自から施工検証を行い、設計側に作業性が良い方法を提案致しました。その結果、1か所に集中して作業性が悪かった配線経路を2か所へ分けて、作業性を改善することができました。



■ 効果の確認

改善後のアンケートの結果、改善前は全体平均が-1.4だったのに対し、改善後では+2.1にすることができました(-3~+3、7段階評価、N=9)。頂いたコメントからもイラストを中心とした構成により大変分かりやすくなったという声を頂くことができました。

■ 最後に

今回、現場に行くことで使っている人の気持ちになることができました。

使いやすく、分かりやすいマニュアルとは何か？

実現するためにはどうすればいいのか？

私のいる商品価値向上グループではモノづくりの観点から大切にしている言葉があります。

現地・現物・現人[※]

※現認、現実ありますが、あえて「人」にしています

物事の本質をとらえ、新しい価値を創造する

実際に現地へ行き環境を肌で感じ取ったり、実際にモノに触れたり、現地の人と話し合うことで、物事の本質をとらえ、新しい価値を創造し続けていきたいと思っています。



一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会とは

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会(略称JTCA、英文名称Japan Technical Communicators Association)は、製品・サポート情報の発信に携わる専門家の団体です。

1992年1月に任意団体として設立され、2009年1月に一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会として発足しました。

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会とは

本財団は、製品・サポート情報の品質改善により各種製品・サービスの利用に際しての安全性向上と誤使用防止、および製品・サービス供給者におけるリスク管理への寄与につとめるとともに国民の健康(ウェルネス)の実現を目指す。更に技術の活用およびそれから得られる体験価値における社会的・地域的格差の解消を図るため、以下の公益目的を達成するための活動を行う。これらの公益活動を通じて、供給者および受益者における情報リテラシーの向上に寄与すると共に、製品・サポート情報を効果的かつ効率的に提供する技術を高め、その技術に携わる多様な人々の相互交流と研鑽を積む事により、社会貢献を果たす。

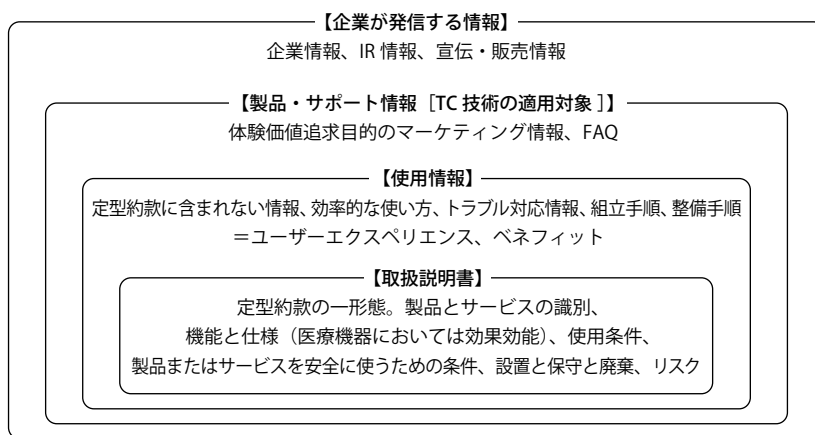
出典:定款第6条から一部抜粋、2024年

テクニカルコミュニケーション(TC)技術とは

法令要求に基づき、企業がつたえなければならない製品・サポート情報を、技術的に正確に、かつ理解されるように表現してこれを必要とする者につたえる事を専門領域とし、製品の一部としての使用情報の作成実務を担うとともに、製品とサービスの活用を通じた体験価値の高度化と使用者保護の両立に寄与する事を社会的使命とする技術国際規格に即した工程モデルを推進する技術である。

出典:『製品・サポート情報のつたえかたコンプライアンスと校閲編第1版』TC協会編著

製品・サポート情報とは:



出典:製品・サポート情報のつたえかた コンプライアンスと校閲編 第1版

テクニカルコミュニケーターとは

- 製品・サポート情報の発信に携わる専門家
- 製品・サポート情報を企画し、制作を統括するプロジェクトマネージャー
- ユーザビリティ設計および開発の担当者
- 理解しやすい説明文を書き起こすテクニカルライター
- イラストや概念図などを作成するテクニカルイラストレーター
- オーサリングシステムを用いて制作実務を担う Technical author
- 情報の適切な配置を決め、使いやすさを向上するデザイナー
- 海外向けの使用情報に携わる翻訳者およびローカライゼーション担当者
- 認知科学、心理学、デザインなどの研究者、教育者

出典:一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 Webサイト、整合のため一部改変
整合根拠: ISO/IEEE 82079-1:2019、
『製品・サポート情報のつたえかた コンプライアンスと校閲編 第1版』TC協会編著

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会の活動

●シンポジウム委員会

- ・夏季は「コミュニケーションデザインシンポジウム2025」としてブレンディッド型(対面とオンライン配信)にて開催
- ・秋季は「テクニカルコミュニケーションシンポジウム2025」として対面にて開催

●ジャパンマニュアルアワード委員会

- ・年度最優秀マニュアル(マニュアル オブザイヤー)の選出と表彰
- ・国際規格(IEC82079-1)に基づく評価

●学術研究産学協同委員会

- ・TC技術発展に向けて調査研究活動を大学などの公的研究機関と連携
- ・テクニカルコミュニケーション・リデザイン学術研究会での研究成果の共有

●海外交流推進委員会

- ・欧州のTC専門組織(ドイツtekomp)と連携
- ・ドイツtcworldとの共催と相互交流
- ・TC国際円卓会議の推進
- ・IEEEとの交流

●標準規格策定委員会

- ・標準制作工程の検討
- ・使用情報に関する国際規格の策定/改定(IEC82079シリーズ)
- ・カタカナ表記ガイドラインの策定/改定
- ・使用情報のJIS規格策定

●人材育成事業

- ・セミナーによる人材育成活動
- ・最新の制作ツールなど、新しい技術動向の解説
- ・大学向けTC専門課程認定制度導入校の拡大
- ・HCD検[®]認定TCエンハンス試験

●TC技術検定事業

- ・全国共通の基準でスキルの到達度を判定
3級:テクニカルライティング試験(TW)
2級:使用情報制作実務試験(MP)
2級:使用情報制作ディレクション試験(DR)
- ・2級TCスペシャリスト認定制度

●国際TC検定試験事業

- ・ドイツTC協会(tekomp)認定のTCTrainNetを活用した英語によるTC技術の学習、試験による国際的なTC資格取得の推進

●出版事業

- ・TC技術解説書(兼TC技術検定ガイドブック)の発行
日本語スタイルガイド(第3版)
トリセツのつくりかた:制作実務編
製品・サポート情報のつたえかた
コンプライアンスと校閲編(第1版)
トリセツのつくりかた:品質追求編(新編集版)
- ・使用説明関連の中国国家標準解説書
- ・機関紙Frontierの発行

●受託事業

- ・マニュアル等の製品・サポート情報の評価サービス(国内向け、海外市場向け)

詳細はTC協会webサイトで紹介しています。
<https://jtca.org/>



一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 入会特典

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会では、魅力ある多数の特典を用意して、皆様のご入会をお待ちしています。

会員数:2024年12月1日現在
法人会員:90社
準法人会員:3社
個人会員:123名

■製品・サポート情報の収集および活用

1) TC技術検定試験の活用

- ・制作関係職種の人材育成の指針と到達度評価に活用できます。
- ・人事制度上の各種施策への利用ができます。

2) マニュアル評価技術の活用

- ・マニュアル評価基準で自社マニュアルの評価と品質向上につながられます。
- ・ジャパンマニュアルアワードの評価結果を受け自社のレベルが把握でき、改善目標が明確になります。授賞した作品は、社内への有効なPRにもなります。
- ・マニュアル評価審査員講習会に参加でき、評価方法/技術を習得できます。

3) シンポジウムの活用

製品・サポート情報の今後を見すえ、プログラム内容は毎年更新しています。

- ・パネルディスカッション、特別セッション、事例発表の参加を通じ、TCに関する新しい研究成果や技術、仕組みなどが習得できます。
- ・他社、制作会社など業界動向(表現技術、ツール、UX、DX、標準化、翻訳等)を幅広く把握できます。

4) 調査研究成果の活用

国内にとどまらず、海外の関係団体との協業による活動を強化しています。

- ・使用情報の制作技術・技法、人材育成などの調査、分析の成果を制作環境に反映できます。
- ・単独では難しい課題や案件が、複数企業が共同して取り組み、成果につなげることができます。
- ・共同調査研究活動で業界他社や関連官庁、公共機関等にもパイプをひろげることができます。

5) 会員との相互交流の場の活用

協会行事運営への参加(各種実行委員会、ワーキンググループ、実務技術研究会など)により、交流を通じ、人脈を拡大できるとともに、他社の使用情報制作の課題や組織体制などの情報収集ができ、自社のレベルを把握できます。

■会員料金と会員割引特典

【年会費】 法人会員:18万円(入会金不要) 準法人会員:9万円(入会金不要)
個人会員:1万円(入会金は1万円)

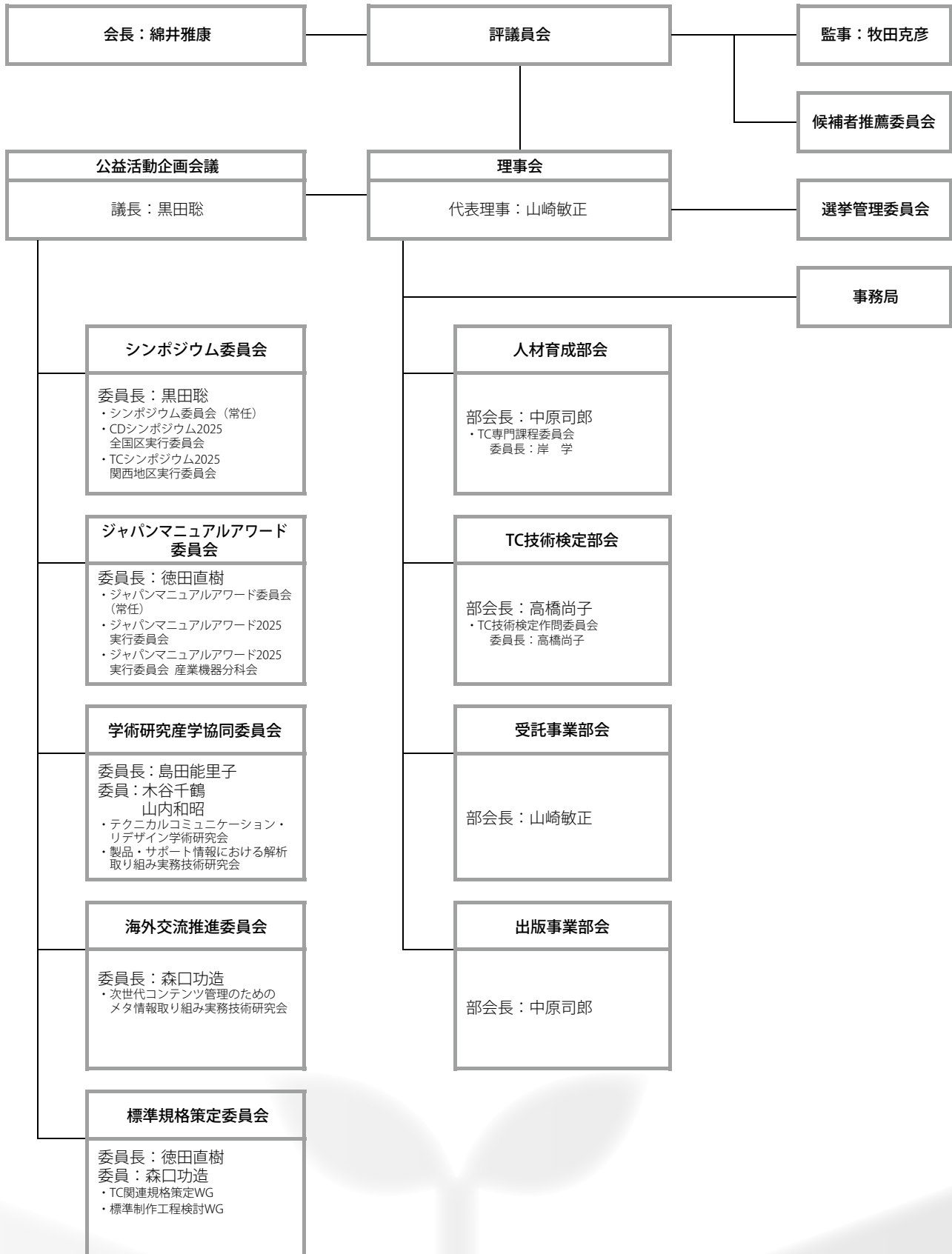
- ・TC技術検定試験の会員受験料金は、非会員価格と比較して30%~50%割安です。
- ・TC実務セミナーの会員受講料は、非会員価格と比較して30%~50%割安です。
- ・TCシンポジウムの会員参加料金は、非会員価格と比較して30%~50%割安です。

■法人会員にはさらに大きな特典

- ・法人会員の場合は入会法人社員のすべての参加者・受験者に会員価格が適用(準法人会員は限定人数分のみで個人会員は本人1名のみ)
- ・TCシンポジウムにおける商品発表および商品展示、プログラムへの広告掲載料金が割安
- ・機関誌『Frontier』への広告掲載料金が割安
- ・マニュアル等の製品・サポート情報の個別評価価格が割安

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

組織体制：2024年12月10日現在



Frontier (フロンティア) 第19号 2025年3月発行

発行：一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-34-2 第一後藤ビル 101 号室

Tel.03-3368-4607 Fax.03-3368-5087

<https://jtca.org/>

発行人：綿井 雅康

編集責任者：山崎 敏正

企画／編集：TC 協会出版部会

表紙・本文デザイン：菊池美範（株式会社エイアール）／吉光さおり（Kamigraph Design）

制作：株式会社パセージ

©Japan Technical Communicators Association 2024

JICA